

# 半世紀に一度の国体

## 開催日まであと40余日……

### 市民一人一役で迎えよう



大会旗・炬火リレーのリハーサル

約五十年かからないと全国を一周しないという国体。自分の住む町で開かれるということは、まさに一生一度しかないともいえる国体。栃の葉国体まで、いよいよ残すところ四十余日になりました。秋季大会では、日光で二種目「山岳」と「剣道」が実施されますが、このワンチャンスともいえるべき大会に、選手・役員はもとより、全市民が一人一役の気持ちで、何らかの形で参加し、大会を成功させ、良い思い出としたいものです。

町の清掃美化、花いっぱい、親切運動などいろいろな形で大会への参加ができます。今こそ市民憲章の実践、とくに旅行者を温かく迎えたり、美しい風習を育てたり、開催地住民としての責任が問われるときでもあります。日光の大会は良かった……と感謝されるように、物心両面での誠意ある歓迎が強く望まれ、市民一丸となって、この好機を大切にしたいものです。

大会の競技日程は、次号十月号でくわしくお知らせしますが、競技に先立ち「大会旗・炬火リレー」が、十月七日、八日の両日、市内小中学生により実施されます。次の予定時刻に沿道に出て、ご声援ください。なお現場付近は、交通

混雑が起きると思われませんがご協力ください。  
〔10月7日〕野口木材置場14時30分、福田建設資材置場14時39分、上野入口14時46分、柳田靴店横14時57分、市役所前15時8分（泊）〔10月8日〕市役所前9時30分、

森島医院横9時38分、植物園前9時47分、安良沢小入口9時54分、古河アルミ工場前10時2分、古河電工前10時9分、加藤ふとん店前10時16分、奥細尾東武バス回轉場所10時23分、自動車輸送、日足トンネル記念碑10時36分

### 本番さながら

### 栃の葉国体炬火リレー試走

「栃の葉国体」を二か月後にひかえた八月八日、九日の両日、国体旗と炬火リレーのリハーサルが行われました。

今回は、トーチに点火して行われたもので、白煙をあげてリレーされる炬火は本番とまったく同じで迫力のあるリハーサルとなりました。

八日、今市市から引き継いだ国体旗と炬火は、小来川小→野口小→小来川中→東中の児童生徒六十名によって市役所まで無事にリレーされました。市役所で一泊した国体旗と炬火は、翌九日、出発

式を終えた後、日光小→日光中→安良沢小→中宮祠中→所野小→清滝小→中宮祠小の児童生徒百十九名によって奥細尾までリレーされ、日足トンネル記念碑前で無事足尾町に引き継がれました。（奥細尾から日足トンネル記念碑前までは自動車輸送）

二日間にわたって行われたこのリハーサルも、前回同様、予定していた時間でリレーできたことで、関係者や国体旗と炬火をリレーした各学校の児童生徒は「十月七日、八日に行われる本番のときもこの調子で」と自信をもったようです。

### 表紙のことば

表紙シリーズ

日光むかしがたり

### 明治三十五年の大風水害

日光の歴史の中には、さまざまな災害の記録が残されているが、そのつめ跡が残る最たるものは、明治三十五年九月の大風水害だろう。防災の日、九月一日に因んで、その記録をさぐってみた。当時の日光町が作成した被害の概況書の一部を抜き書きし、現代語になおしたものである。

「明治三十五年九月二十六日ごろから雨が降り続き、二十八日午前四時ごろから暴風雨に変わった。七時ごろからは豪雨となり、九時ごろから、大谷川・稻荷川その他の川が出水し、山がくずれ、土砂樹木をまじえて流れ出し、午前十時には、神橋付近の水位は、三丈（約十尺）にもなり、洪水になったので、役場吏員総出で警鐘を打ち、警官・消防手を召集……水勢はますます激しく、ことに神橋付近はせまいたため下河原一帯は浸水、午前十時二十分仮橋流失、同三十分神橋流失……日光小学校の御真影は、二荒山神社社殿に移し……役場の重要書類は、高台の小西別館に運